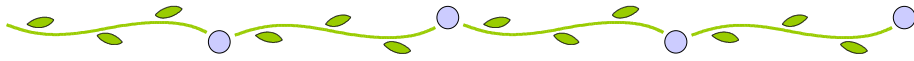


市川を調べる

発行 八戸市立市川公民館(木村 隆一)
市川を調べる会(会長 星 一郎)



「市川を調べる会」

懇親会開催

「市川を調べる会」は、これまで十六回開催されましたが、当初十九名で発足したこの会も、最近では会員が減少傾向にあり、メンバーも固定されつつあります。

このために、多くの皆様からご意見をお伺いいたしたく、約四十名に懇親会のご案内をさしあげました所、次の方々が参加して下さいました。(七月十一日開催、十二名参加)

- ・鈴木 雅久 ・風穴孝三郎 ・木村彦三郎
 - ・木村 菊一 ・吉田 博司 ・根岸 國男
 - ・鈴木 國男 ・小川 真 ・鈴木 亮
 - ・奈良孝次郎 ・船木 彦美 ・木村 隆一
- 〈話し合われたことなど〉

- * 会員をもっと増やす。
- * 見えるものから調べる。
- * 責任編集をする。
- * 編集の評価をする。
- * 人物にしよう。
- * 「多賀」小学校のいわれを知りたい。

※前号で「ファミレス・市川を調べる」のメニュー(原稿)募集をした所、さっそく轟木下町内の **鈴木玲子さん** から、物語としての **「與兵衛さんと権現様」** の原稿をいただきました。これは次号に掲載する予定です。ありがとうございました。

【明治29年の津波のこと】

多賀台 奈良 孝次郎

市川昔がたい③

〈津波がやってきた〉

市川地区を襲った津波は何度か記録されているが、一番大きな被害をもたらしたそれは**明治29年(1896)の三陸大津波**でした。当時の記録によると、このようになっています。6月15日(旧暦5月5日)の午後7時半頃地震があった。大きな揺れではなかったが、少し長く続き、その後、海のかなたからすさまじい轟音、海上が光った。しばらくして津波がくり返し押し寄せた。

〈大きな被害をもたらした〉

この時の津波の被害は三陸海岸で特に大きく、**死者は岩手県中心に2万7千余人**だった。**青森県の犠牲者は死者345人**、百石地区の一川目・深沢地区で多く、**八戸地区では、市川村の28名**だった。

当時の市川村は、海岸近くにもかなりの住居や仕事場があり、そこへ津波がやってきた。当時、網元をやっていた吉田家の過去帳によると、一家で6名(おとな2人、子ども4名)の死者を出している。ほかに、家屋破壊や漁船流失などの被害も大きかった。

〈気づいたこと〉

調べてみて気づいたことがある。当時の地震の揺れはあまり大きくなく、震度3程度だったらしい。当時のことは正確には分からないが、宮古測候所で一応の記録を残している。その地震の後で24メートル超の津波となった。津波は何度かやってきたが、最大のものは3回目だった。そして、当時は避難警告など、しくみとして、なかった。

〈いまの市川の海岸は〉

いまの市川地区の海岸をみると、堅固な防潮堤に囲まれているが、大津波の来襲に対して大丈夫なのだろうか。安全であることを望むとともに、気がかりが頭をよぎる。この項を書くにあたって、次の方々のご教示を得ました。

吉田英造夫妻・木村仁松氏・木村亀之助氏。 なお、吉田英造氏は、その後死去されました。



参考:「聞き書き多賀の百年」、「百石町誌(下)」、「三陸海岸大津波(吉村昭)」

